（第3種郵便物認可）　東京新聞（夕刊）　2004年

ケータイは家族のホットライン

「会話が減った」と言うけれど…

国民の三分の二が携帯電話を持つようになり、「ケータイで家族の会話が減った」という批判も多い。その一方で、「学校などの悩みをケータイで家族に相談する」という声もある。ケータイが家庭で果たしている役割を探ろうと、慶応大学湘南藤沢キャンパス（SFC）で今春から、思春期の生徒やその母親などにインタビュー調査を行っている。これまでの調査結果を紹介する。（同大・政策メディア研究科修士課程　天笠　邦一）

「すごく仲がよかった友達とけんかをしました。クラスが同じで、会ったびに彼女の一つ一つの行動に腹が立つんです。友達に話すと、話がうわさとして広まっちゃうので、その場で母親にメールをします。○○ちゃんてこんなにひどいんだよってね」

横浜市の高校二年の女子生徒は、母とのコミュニケーション手段にケータイを使っているという。ケータイの登場で、互いに離れた場所にいながら、親が思春期の子どもの精神的ケアをすることが可能になった。もちろん、この生徒の学校でも学内でのケータイ使用は禁止だが、ケータイが社会で大きな役割を果たしていることも現実だ。この生徒は最後に、「ちょっと変わっているけど、お母さんの子どもでよかった」と笑った。

学校やバイト先の悩み、親が即ケア

お祭りで家族と連絡を取り合う父と娘

神奈川県藤沢市の女子高校生の母親も「娘はバイト先で、人間関係が悪化して孤独を感じるとメールを入れてくる。『トイレ！』と言って席を外し、そこで打っているみたい。友達とけんかしても入れてくるし。そういう時は、即答を心掛けている。本当に心配しちゃう」と言う。ケータイは非常時の親子間ホットラインの役割も果たしている。

ケータイが、家族のコミュニケーションを活性化することもある。横浜市の男子高校生は「母親や家族に、友達とケータイで撮った変な写真を見せたりすると、『何やっているの』とか言って笑ってくれるのがうれしい」と話す。インタビューをした家族の中には、ペットの写真をケータイで撮って母親に見せたり、メールで送ったりする女子高校生もいた。

「携帯電話」と「家族」は、一般に相性が悪いと思われてきた。「親子のコミュニケーションが希薄になった」「子どもの友人関係を把握するのが難しくなった」という指摘が、ケータイの普及当初から多くなされた。ケータイは、既存の社会ルールと多くの場面でぶつかり、批判されてきたが、社会ルールとの整合性をとりつつ、その巨大な可能性をよりよい社会づくりに生かしていくことこそ大切ではないかと思う。

高校・大学生ら調査　ひと言集

住所	職業など	性別	コメント
神奈川県川崎市	大学2年	女	すごく落ち込んで、ぶらりと海に出かけた時、お母さんから「大丈夫？」ってメールが来て、すごくうれしかった
東京都世田谷区	大学2年	男	帰宅途中で駅に着くと必ず家に連絡します。お母さんが買い忘れたものとかないかなあと思って
神奈川県鎌倉市	高校3年	女	お母さんはケータイをほったらかし。私が返事をして、後で、だれから連絡があって、どう返事したかお母さんに話します
同藤沢市	母親	女	娘の寮には公衆電話が1台しかなかったので、ケータイを持つようになった。社会人になった今も、メールでよく相談ごとなどやり取りしています
同横浜市	高校1年	男	門限に遅れたり、連絡しなかったりすると、必ず母親からメールが来る。でも、うざくない。だって、約束を破った自分が悪いのだから
同横浜市	高校2年	男	家族とはあまり、ケータイで連絡を取りません。家でもあまりしゃべらない。自分の部屋などでテレビ見たり、宿題やったりしている
同藤沢市	20代会社員	男	姉の部屋は電波が弱く、リビングにケータイを置いている。着信があると「メールだよ」って声をかけます。自分のはポケットや自分の部屋にある
同横浜市	母親	女	ケータイで話をする時は、階段に腰掛けるか、客間に行くとかしている。聞かれて困る話ではないんだけど、うるさいかなあと思って
同厚木市	高校3年	女	弟は、なぜかケータイの番号を教えてくれない。恥ずかしいのかなあ。でもメールアドレスは知っています
同横浜市	母親	女	着信音を変えたくなったら、分からないのでお姉ちゃん（娘）に頼みます。お姉ちゃんに、「着信音を変えておいたよ」なんてよく言われます

■「慶応デジ組」のサイト
http://ktai.sfc.keio.ac.jp/digi/

慶應義塾大学　デジ組

e-net　東京新聞のホームページ　http://www.tokyo-np.co.jp/

みんなのデジタル

2004年10月25日付　東京新聞夕刊